

今日の眼疾患治療指針 第4版

大路 正人, 後藤 浩, 山田 昌和, 根岸 一乃, 石川 均, 相原 一 編

本書は、眼科診療に携わる医師が日常診療に座右の書として備えるべき一冊としてお薦めしたい本である。

医学書院は『今日の治療指針』を毎年改訂しているが、これの眼科版として本書の初版が2000年に上梓された。発刊時の編集者である故田野保雄先生、故樋田哲夫先生の「眼科日常診療において座右の書となり得る実用書」をめざす意図は、今回の第4版にも大いに反映されている。

現在は、オンライン検索で病名や治療法の情報を一般人でさえも簡単に手に入れられる。しかし、眼科医が実際の臨床現場で適切に診断し治療するために確認する検索用ガイドブックには、疾患の概念から検査法の特徴、治療法の最前線の情報までが整理されていて読みやすいことが求められる。本書は、眼科専門医が、実際の診療に生かすために必要な最新の検査や治療法の知識にも漏れがないよう配慮しつつ、各検査の基本概念から実施方法、新たな疾患概念や診断・治療のガイドライン、新しい機器の紹介などにも触れ、治療に際しては、薬品名、用量・用法などの具体的な処方方も記載されている。したがって、単なる辞書ではなく、実用的な教科書の機能も果たしているのである。さらに、実用書としての特徴を堅持するために、まれな疾患や一般に使用されなくなった検査などは排除され、保険適用外の治療などでは、その旨が明示されている。そして、近年の急速な眼科診療の進歩にキャッチアップできるよう、前版から半数以上の執筆者を交代、第一線で活躍する各専門分野の310名の著者が選ばれている。本書の目的に合うよう、多数の写真や図を使いながらわかりやすいように解説している。

本書では、まず総論で眼科検査と治療の基本が述べられている。ここがまさに辞書と異なる教科書としての役割を果たしている。総論は検査総論と治療総論の2章に分かれていて、それぞれの内容の充実度は半端ではない。最近のOCTアンギオグラフィの原理や検

査法、検査のアーチファクトなども簡潔に説明されている。視力屈折測定の項目をとっても、視力検査、自覚的屈折検査、小児の検査、眼鏡処方、VDT検査、コントラスト、波面収差解析、ロービジョン検査などの23細目について、最新の検査を意識しながら、目的、原理、使用法、判定の項目別に要領よく解説されている。続いて、前眼部、緑内障、後眼部、神経眼科・斜視、網膜機能検査など、臨床現場で調べたい項目の要点がわかりやすく紹介されている。治療総論は、点眼、洗眼から各種注射までの処置、抗VEGF薬などの生物学的製剤を含む薬物、前眼部手術から眼内・眼外手術、各種のレーザー手術の大項目に分かれ、各治療の適応、有効性、安全性などの項目立てで、最新の治療法が見逃されないように説明されている。

各論(3~23章)は、眼瞼疾患、涙器疾患、結膜疾患、角膜疾患から始まる。網膜疾患、緑内障などのオーソドックスな疾患分類だけではなく、瞳孔疾患、眼球運動障害・眼振、屈折・調節異常、さらに眼精疲労、不定愁訴、心因性眼疾患、診察・手術時の緊急事態、ロービジョンケアなどの臨床現場に即して調べたいタイトルが取り上げられている。それぞれに関して、概念・症状、診断法、鑑別疾患や診断のための検査などの要点が簡潔明瞭に解説されている。新設の章「ロービジョンケア」では、検査から最新の補助具の特徴や使い方のコツなどが、多数の写真を提示しながら説明され、診断書の書き方や関連団体のURLまで提示されている。

眼科診療における近年の目覚ましい進歩を取り込みながら、プラクティカルな教科書としてA5判で仕立てられた本書を、外来や病棟の診療現場の座右の書としてぜひお薦めしたい。

杏林大学医学部付属病院杏林アイセンター教授
平形 明人

A5・頁1184 2022年09月
定価: 28,600円(本体26,000円+税10%)
[ISBN978-4-260-04807-1] 医学書院刊